

九州大学医学部標本・史料集：1997年調査

丸山, マサ美
九州大学医学研究院保健学分野：講師

Michel, Wolfgang
Former Kyushu University vice president, Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University
: Professor

吉田, 眞一
九州大学医学研究院細菌学分野：教授

小宗, 静男
九州大学医学研究院臨床医学外科学講座耳鼻咽分野：教授

<https://doi.org/10.15017/26569>

出版情報：2013-05. Faculty of Medical Sciences, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



刊行にあたり

本資料は、九州大学医学部臨床研究棟 5 階：整形外科教室整形外科器物史料・整形外科資料室ノートなど（83 点）、九州大学医学部基礎研究 A 棟 2 階：解剖模型（294 点）および九州大学医学部基礎研究 A 棟 1 階：病理学肉眼標本室標本（1542 点：1997 年 4 月 1 日）、九州大学医学部基礎研究 A 棟 1 階：医学部資料集室（221 点）を中心に整理された。

平成 17（2005）年、福岡県西方沖地震（マグニチュード 7.0）により既に修復不可能となった破損標本（一部）を含む本資料集の標本コレクションは、時代を超えて、量的・質的評価において、学際的な『意味』と『価値』を持つ極めて優れた貴重なコレクションである。

平成 9 年、九州大学言語文化研究院 Wolfgang Michel 教授による九州大学医学部基礎研究 A 棟における調査記録を中心に、史実として、その全てを掲載している。全ての史料の再現には、さまざまな見解がもたれたが、Wolfgang Michel 教授（現在、日本医史学会常任理事）と九州大学大学院医学研究院病理病態学 居石克夫教授（当時）による往復書簡から、このような学際的な『意味』と『価値』を持つ標本・模型全てを再現・掲載する事は、学術的にも極めて重要な視点であると判断した。

明治期・大正期・昭和期・各時代における『病理学』、『解剖学』、『整形外科』領域における史料は、各学問体系の系譜を概観する上で、また、時代における社会との関係性を考究する上でも『意味』を持ち、医史学の発展に資するものである。

本資料が、今後さらなる医史学の教育・研究に役立つ事を願う。

平成 25 年 5 月吉日

研究代表者 九州大学医学研究院保健学部門
丸山 マサ美

調査項目：

- 1 臨床研究棟 5 階 整形外科教室の器具、ノートなど (83 点)
- 2 基礎研究 A 棟 2 階 解剖学研究室 解剖模型 (294 点)
- 3 基礎研究 A 棟 1 階 病理学教室 標本 (1542 点)
- 4 基礎研究 A 棟 1 階 医学部資料室 (221 点)

付記

本史料集は、平成 23 年度・24 年度 科学研究費助成事業（挑戦的萌芽）
『課題番号（23650563）研究課題名（九州大学医学部における史料研究
－新しい「医の倫理」教育方法論の構築－）』の成果となる



研究者一覧

前九州大学副学長、言語文化研究院 教授 Wolfgang Michel
九州大学医学研究院 細菌学分野 教授 吉田 眞一
九州大学医学研究院 臨床医学外科学講座 耳鼻咽喉分野 教授 小宗 静男
九州大学医学研究院 保健学分野 講師 丸山マサ美